

運輸区 とらぶ 第四十九号



デジタル戦略の大誤算?!

みどりの窓口削減凍結で・・・

JR 東日本の迷走は続くよ どこまでも・・・!

別にこの会社の誤算は今に始まったことではないことくらい誰もが知ってますが・・・。誤算の原因は、どれもが現場を無視し、社員や利用者の声に耳を傾けずに、ごり押しで実施していることに他なりません。

デジタル戦略、迷走の流れ

コロナ禍での巨額の赤字を記録し、旅客需要が低迷する中、2021年5月にみどりの窓口の削減方針(440箇所～140箇所)を発表しました。同年6月にえきネットの大規模アップデートをするも、繁忙期に各地の窓口を利用者が殺到したり、

訪日外国人の急回復での大混雑、えきネット自体も使い勝手の悪いまま急いだ感もあり、検索性の低さや、新幹線と在来線の連携の悪さ等々で「(デジタル戦略が) 想定通りに進んでいない」ことを理由に社長自ら今月「削減方針の凍結(削減方針は維持する)」を発表しました。ちなみに現在、209箇所まで削減が続いていました。

だからあれほど言ったのに

・・・は、駅の仲間の声ですが、利用者に不便をかける施策では、現場社員のしわ寄せも想定出来、組合側も勿論、反対の運動を取り組んできました。

まだまだデジタル難民、機械難民、あるいは交通弱者も多い中で、それらを置いてけぼりにし、切り捨てるかのような会社の姿勢は許されません。

将来的にはその割合も逆転に近くなるのかもしれませんが、まだまだ会社の思惑通りにはいかないでしょう。もっともっと丁寧な対応が必要です。

対面で話せる安心感!

どんなに機械化やデジタル化が進んでも、窓口で対面で話せる安心感に勝るものはありません。そんな利用者の声も絶対届いていたはずです。

会社は一連のドタバタ迷走を反省し学び、現場社員や利用者の声に真摯に向き合わなければなりません!!!!

うたてつ ノスメ 37

津軽海峡冬景色 (石川さゆり) 1977年1月

上野発の夜行列車 降りた時から
青森駅は 雪の中
北へ帰る人の群れは 誰も無口で
海鳴りだけを聞いている
私もひとり 連絡船に乗り
凍えそうな鷗見つめ泣いていました
あああ 津軽海峡冬景色

ごらんあれが竜飛岬 北のはずれと
見知らぬ人が指をさす
息で曇る窓のガラス拭いてみたけど
はるかにかすみ 見えるだけ
さよならあなた 私は帰ります
風の音が胸をゆする泣けとばかりに
あああ 津軽海峡冬景色

このコーナー2度目の登場。1回目はデビュー直後の名曲「泣き虫列車」だったが、この歌手と言ったらやはりこの曲であり、鉄道ソングとしても絶品。15枚目のシングルで、作詞:阿久悠、作曲:三木たかし。どちらも相当な気合を入れて作ったに違いない。昭和生まれの日本人でこの曲を知らない人は・・・いないだろう。

鉄道ソングの定番? 通り、恋にやぶれたのち、北へ向かうというものだが、主人公は本州さいはての青森でも飽き足らず? 連絡船で北海道まで渡ろうとしている。勿論これは、北海道に帰る場所があるという設定

なのだろう。フレーズのひとつひとつの情景に、凍りつくような冷たさを感じさせ、それが失恋の辛さを倍増させているのは流石である。夜行列車、連絡船、更に列車に乗っての旅ゆえ、色んなものが見え、色んなことを考えることが出来、それが歌になるのである。これが東京から新幹線で・・・では、歌にならないだろうなあ・・・きっと。青森の景色の描写が多いが、それを青森の人が見るわけではなく、これを見るのは北海道に渡る人だけである。
この翌年、青函トンネルが開通したらしい。滑り込みセーフ?